

福井市公正入札調査等委員会の開催概要について

このことについて、令和4年度福井市公正入札調査等委員会（第1回）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

記

1 日 時 令和4年7月29日（金） 10:00～11:30

2 場 所 福井市役所 第3委員会室

3 出席委員 委員5名

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議題

- ・入札及び契約手続きの運用状況の報告（令和3年12月～令和4年5月）
- ・抽出事案審議（5件）

(3) その他

- ・管工事における入札状況の報告

(4) 閉会

5 会議概要

(1) 入札及び契約手続きの運用状況の報告（契約課）

- ・契約件数、請負率の状況について説明。

Q 建設業法違反行為の状況と、その処分、指名停止措置2カ月は妥当な期間なのか。

A 近畿地方整備局長から指示処分並びに営業停止処分を受けたということが、建設業法違反行為にあたるという状況。処分については、福井市建設工事等請負契約に係る指名停止等措置要領に基づき、「市発注の工事においては、1ヶ月以上12ヶ月以内、それ以外については、1ヶ月以上9ヶ月以内」との規定があり指名停止処分2ヶ月が妥当であろうと判断した。

Q ウクライナ情勢等で資材等が高騰している中、公共工事への影響は出ているのか。

A 現在、鉄鋼等の物価が上がっているが、当局としては直近の実勢価格に合わせて対応しているため影響はそれほどでもない。今後も価格が高騰する取り扱いに関しては直近の実勢価格に合わせて発注するなどして進めていく。

(2) 企業局の入札及び契約手続きの運用状況の報告（経営管理課）

- ・契約件数、請負率の状況について説明。

(3) 抽出事案審議

ア 審議事案1

防ANo.3-1 道路舗装工事（条件付一般競争入札）

Q 最低価格未満で失格者が多いが、最低制限価格を高くするなどの対応はできないのか。

A 最低制限価格については、舗装工の場合、設計金額の89%～91%の範囲でランダムに設定している。最低制限価格が、例えば90.795%など高めに設定されてしまうと最低制限価格未満での失格者が増えてしまう結果となるが、最低制限価格の比率も、福井県や国の状況を踏まえ設定しているので適正であり、公告にも記載しており業者も分かっていることであることから現状のままの対応とする。

イ 審議事案2

新ごみ処理施設整備に係る敷地造成工事（総合評価落札方式一般競争入札）

Q 設計金額や調査基準価格と、実際の入札価格の差が大きい。業者全体が80%弱で応札しているが、設計額となぜ大きく違うのか。

A 当市は、国の基準を参考にし、物価資料も計算されている標準型で積算しており適正であると認識する。技術力や資本力を強化する目的で結成した中小の業者が、資材購入の範囲、加工実績の結果リスク軽減が可能であるとか、新しい技術の使用など積み上げた結果で応札してくるため設計額に対し大きな違いが出てくると思われる。

ウ 審議事案3

令和3年度7月29日発生豪雨災害復旧工事（中平町）（指名競争入札）

Q 辞退が多かった原因について何か理由があるのか。

A 同時多発的な災害だったため被災箇所も多く、通常の工事以外に災害でより多くの案件を抱えることになり、機械や作業員の手配がつく業者がなかったと思われる。

Q 7月に災害が発生し2月に工事が始まるが、随意契約ではなく入札を行った理由は何か。

A 国の補助事業を受け整備するための災害査定があり、現地査定が10月中旬で、査定後実施設計を組むが、この作業に2ヶ月ほど要し、発注が12月下旬から1月上旬になるため、どうしても2月開始となった。また、国の災害指定を受けることから随意契約ではなく入札でなければならない。

エ 審議事案4

R3 公 206 号 加茂河原ポンプ場更新建築機械設備工事（条件付一般競争入札）

Q 設計金額に近い金額で落札されているが、応札金額に差があるのは何か理由があるのか。

A 令和3年から令和5年3月までまたがる長い工期なので、機器の値段も上がるというところも予測した上で、安定した増益を得ようとする圧縮できない状況になり、設計金額に近い応札業者が多かったと思われる。

Q ポンプ場更新建築機械とあるが、普通の建物にあるような一般的なものか。

A プラントの機械設備ではなく、ポンプ場の建築設備の機械なので、一般の汎用品であり、空調でいうとエアコン、換気でいうと換気ファン、排気ファン、換気扇などである。

オ 審議事案5

R3 工番 228 号 道路舗装復旧工事（指名競争入札）

Q 道路が陥没しその復旧作業ということだが、業者の管工事に問題があるのではないか。

A 陥没ではない。管工事は道路を切って掘削し、管を布設後、管の上に埋め戻しをするが、部分的に掘削するため全体的にローラーをかけるものと比較すると転圧が弱いので、管を布設した1~2年は道路を開放し下がった部分を本復旧としている。今回も通常の工法であり、問題はない。

(4) その他

管工事における入札状況の報告

管工事の入札について、今後も引き続き調査する。